# 一王寺遺跡　現地説明会資料

令和３年７月24日（土）　10：30～
八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

## ●はじめに：一王寺遺跡とは

・「史跡是川石器時代遺跡」（中居・堀田・一王寺）のひとつ。面積は約32万６千㎡。

・西側の丘陵を除き、三方を新井田川と旧沢地形（長田沢・寺ノ沢）に囲まれた台地に立地。標高約20~100m。

・台地の南側を中心に、縄文時代前期から後期(約6,000～3,700年前)までの集落(ムラ）が広がり、丘陵部は祈りや弔いの場として利用されている（配石遺構など)。

令和３年度一王寺遺跡調査現場　全景（南西から）

・一王寺遺跡の調査は平成７年から行われているが、遺跡の詳細はまだよくわかっていない。

⇒ **遺跡南側の内容を知るため、令和元年度から調査中**

## ●令和３年度調査

（１）調査概要

調査地点：八戸市大字是川字一王寺地内

調査対象面積：約16,300㎡　　調査面積：約644㎡

調査期間：令和３年６月１日～８月31日（予定）

（２）調査成果（R3.7.21時点）

縄文時代前期後半から後期前半までの竪穴建物跡や土坑（墓)、捨て場、炉跡などがみつかった。

①縄文時代前～中期

調査区南東側の緩やかな斜面地で、縄文時代中期前半から中ごろの竪穴建物跡・炉跡などがみつかった（233トレンチなど)。

調査区北東側は急斜面となっており、そこに前期後半から中期中頃までの捨て場がつくられたと考えられる（231・233・234トレンチなど)。

②縄文時代後期

調査区西～南西側の斜面地では、後期初めから前半ごろの竪穴建物跡などがみつかった（227・228・253トレンチなど)。


⇒ 4Pへ

令和３年度一王寺遺跡調査成果（R3.7.21 時点）

調査区南西では、「墓」とみられる長楕円形の土坑が集中する区域がみつかった（223・228 トレンチなど）。

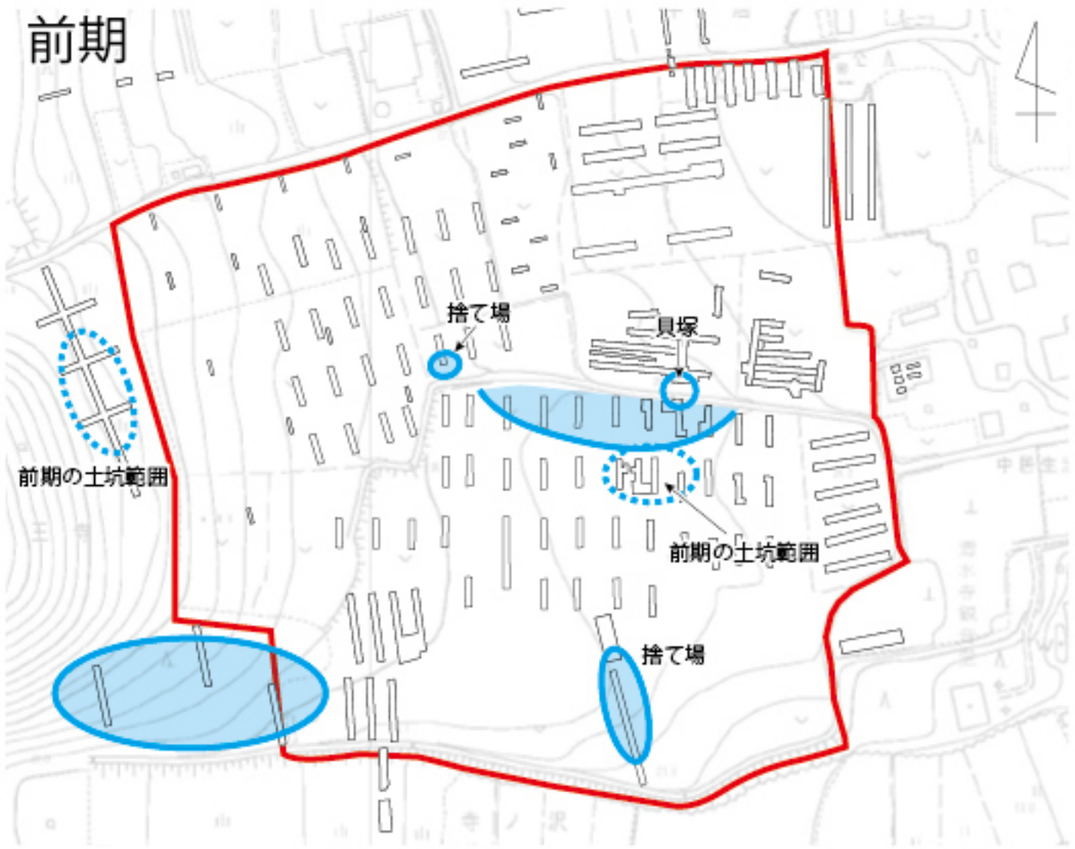
## ●まとめ

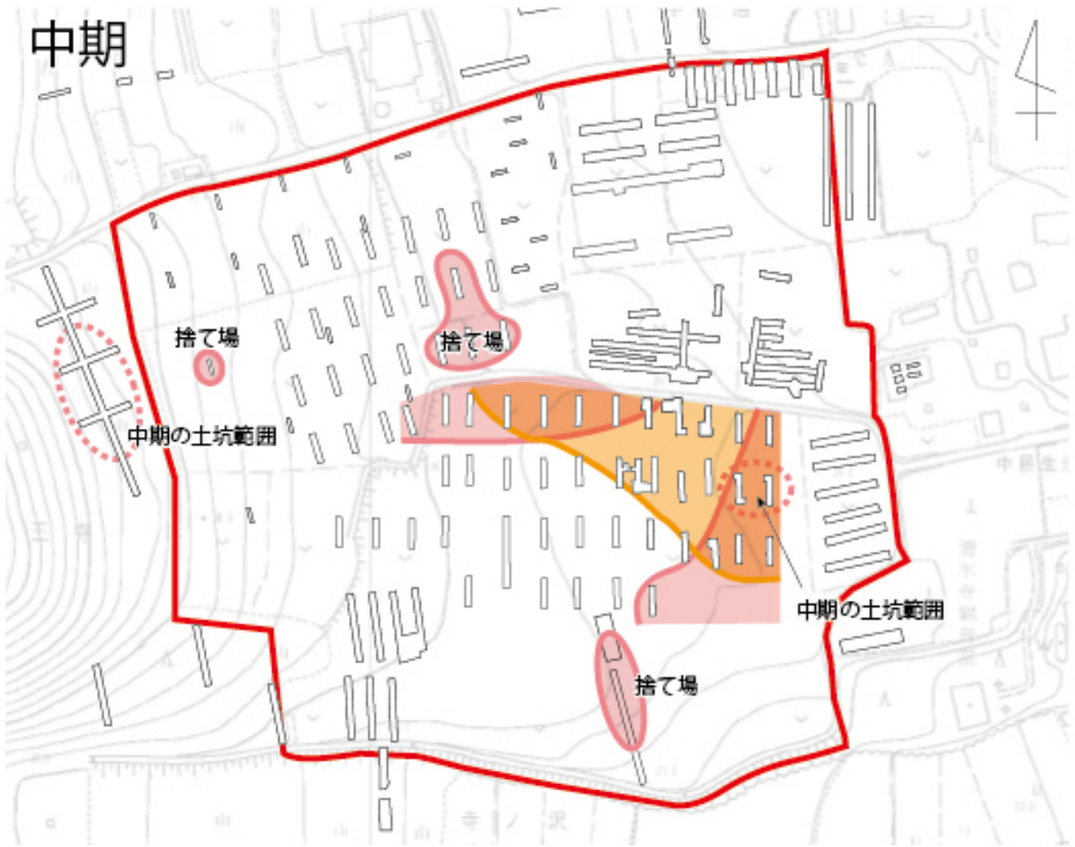
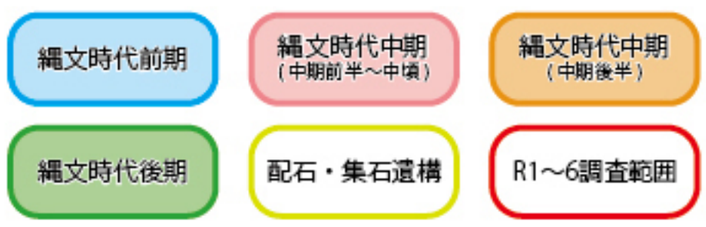
これまでの調査によって、一王寺遺跡での時期ごとのムラの移り変わりが、少しずつわかってきました（右図）。

縄文時代前期（青）：貝塚の周辺など
⬇
中期前半～中頃（赤）：北西～南東へ
⬇
中期後半（橙）：東へ
⬇
後期前半（緑）：西へ

①南側の緩やかな斜面は、どの時期でも居住域として使われていたこと。
②縄文時代前期から中期にかけて、移動しながら少しづつムラを大きくしたこと。
③後期には、ムラの周りに配石遺構や土坑墓などの「祈りの場」をつくったこと。

また、みつかった土器などから、少なくとも縄文時代の前期中ごろから後期中ごろまでの、2,000 年以上の長期間にわたって、一王寺遺跡の中で人びとが暮らしつづけたことが考えられます。






遺構分布範囲模式図